

Forest 通信

H28

9

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.331

巻頭 photo

高尾山の生きものたち

アサギマダラ (マダラチョウ科)

長距離、時には2,000kmもの長距離を旅する蝶として有名なアサギマダラは10cmと大型で、春から夏にかけては涼しい気候を求めて北上し、秋から冬にかけては南の暖かい気候を求めてさまよいます。

以前は、ヒヨドリバナやフジバカマなどの花で吸蜜している光景を目にしたものですが、近年はその姿が減少しつつあるのではと訝（いぶか）しがっております。

今月の一句

「今日はここ 明日はどこやら 旅の蝶」



(フォレストサポートスタッフ 大作栄一郎)

二美ちゃん 富ちゃんの

花外蜜腺



Vol.15



ニワトコは春の山菜の時期になると新葉は食べられるが食べ過ぎると体によくない。沢山採取した友人が家で家族に食べさせたらひどい下痢になり奥さんから苦情がきたということもあったようだ。

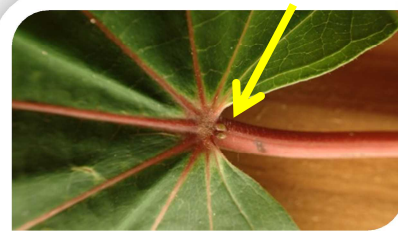
また、ニワトコは民間薬として使われ接骨木（セッコツボク）とよばれ骨折の治療の際に湿布薬として用いた。小鳥の病気にも効くというので昔は止まり木として利用されていた。

この木は花外蜜腺を出している。花外蜜腺でよく知られているのは桜の葉で葉の付け根に小さい蜜腺が2つ付いている。なめるとほのかに甘い味がする。花外蜜腺ということから花以外につける蜜腺のことであり、アリ等を利用して対捕食者から守ってもらうためにあるようだ。花外蜜腺をだす植物としてイイギリ、イタドリなどがある。

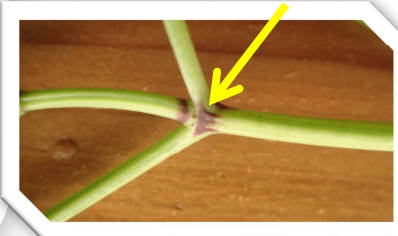
この逆の形として小笠原の植物で広域分布種のオオハマボウは蜜腺があるが固有種のテリハマボウは小笠原において適応放散（生物の進化に見られる現象のひとつで単一の祖先から多様な形質の子孫が

出現すること）するなかで蜜腺がなくなった。当時小笠原にはアリのいなかったために蜜腺を必要としなかったためだと考えられるが、定かではない。（富）

イイギリ花外蜜腺①



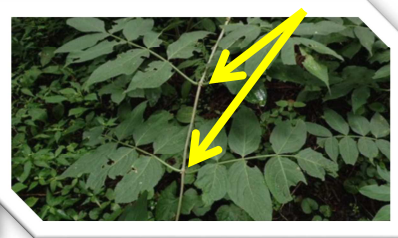
ニワトコ花外蜜腺①



イイギリ花外蜜腺②



ニワトコ花外蜜腺②



「山の日」制定記念イベント

【高尾山エリア】

平成28年より8月11日は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」日として、16番目の新たな国民の祝日「山の日」が誕生しました。

林野庁では「山や森林・山村に親しむ～感じよう、山の恵み、森の恵み～」をテーマに「山の日」の制定を記念して全国の森林管理局署等及び団体等が各種イベント等を開催しています。

この「山の日」初年度における取り組みの一貫として、関東森林管理局の高尾山エリアにおいて、当センターでも一般の者を対象に各種記念イベントを実施しました。（屋）



「森林教室の開催」

（8月8日～14日開催）

期間中「いのちの森高尾山」（DVD）を活用した森林教室を当センター所長が補足説明を行いながら実施しました。



「期間限定・クラフト体験！」

（8月8日～14日開催）

「夏休み特別クラフト体験教室」を開催しました。期間限定で小学生以下の児童を対象として日替わりで作るクラフト作品を林野庁・局・センターHP等で紹介したところ、隣接する「TAKAO599祭」の来場効果もあり、連日家族連れで満員御礼・大好評でした。夏休み満喫中の子どもたちは、指導にあたったインストラクタに木の葉の名前や工作のコツを教えてもらいながら、楽しそうにそれぞれ工夫して自分だけの作品を作り上げていました。



「森林の働きを紹介するパネル展示」

（8月8日～14日開催）

センター庁舎1階の展示室において、高尾山を訪れる人々に高尾山の国有林や自然のこと、森林・林業のことなどを知ってもらうため、樹木の材鑑等の展示、森林ふれあいイベント情報発信及び森林の働きを紹介するパネル展示等を開催しました。

情報誌「林野-RINYA-」に掲載されている林業漫画「お山ん画」も併せて展示したところ、多くの方が食い入るように見ていました。



「みんなの知らない高尾山の森林～森を守る人と歩くハイキング～」(8月21日開催)

事前申込み参加者20名に対して、山頂からの富士山の眺めを良くしたり、登山道を明るくしたり、国有林が高尾山で取り組んできたことを国有林職員が解説しながら案内し、奥高尾の道を少し違った見方でハイキングして頂きました。

参加者からは「高尾山を守るため、国有林(林野庁)が景観や登山者に配慮して、これまで取り組んできたことが良く分かりました。」との意見等をいただき無事に当日イベントを終了しました。

なお、本イベントの実施に際しては、局、東京事

務所、東京神奈川森林管理署及び当センターの協力により実施しました。

具体的には、平成18年度から20年度に実施した健全な森林の育成と高尾山山頂からの眺望景観の向上等を目的とした間伐施業箇所、及び平成23年台風15号による風倒木被害箇所において実施した、歩道利用者の安全確保等を目的とした風倒木処理について、事業内容などの解説を行いながら参加者にはハイキングを楽しんでいただきました。



「魚取りと自然体験教室」(8月13日及び14日両日開催)

裏高尾の日影沢キャンプ場等において、NPO法人「森とでんえん倶楽部」と連携して、夏休み自然体験教室を実施しました。8月13日は53名、14日は61名が参加し、お父さんお母さん、家族の皆さんと一緒に高尾山の素晴らしい環境の中で、「高尾山の植物観察をして植物博士になろう!」をテーマに、植物観察、草笛体験、小川での魚取り、川遊び、スイカ割り、ドングリで作ったカブト虫・クワガタの相撲大会を行いました。子どもたちは都内に住んでいるせいか、特に森林散策や川遊びは目を丸くしながら楽しんでいました。

「TAKA0599祭」(8月1日～14日開催)

高尾山エリアが一体(八王子市、※高尾山地域連絡協議会、高尾商店会、高尾599ミュージアム)となり、併せて「山と渓谷社」等の企画力を加えて「山の日」の話題と関心を高尾山に向け、大型の集客を図る「高尾山 山の日イベント」に林野庁も総合的に展開。

※高尾森林ふれあい推進センターは「高尾山地域連絡協議会」の委員



「まるごと！高尾山GREEN CLEAN作戦」（8月11日開催）

森林インストラクター東京会と連携して、高尾山の自然を親しみながら登山道のゴミを拾う eco ハイキングを実施しました。参加者総勢141名（海外からの参加者を含む）が4班に分かれ、4か所の登山コース（①稲荷山コース、②6号路コース、③日影いろはの道コース、④日影林道～もみじ台コース）から一斉にスタートし、当センターをゴールとして実施しました。八王子市から支給されたオレンジ色のゴミ袋を抱えての登山では、途中すれ違う一般の登山者・参拝者から「ご苦労さま」の声かけもあり、山頂には予定どおり全員無事に到着。昼食後、全員で記念写真を撮影。4つのコースとも

「ゴミの持ち帰り運動」が浸透しているため、全体的にゴミの量は少なかったものの、ペットボトル、缶、ビン、紙ごみ等 45L x 2袋 + 20L x 6袋を回収しました。4つのコースとも一人の脱落者、けが人等もなく当センター前に予定どおり到着し、閉会式を4コース全員集合で実施し解散することができました。国有林からも局、東京事務所及び当センターの職員11名が参加し、山の日PR用の「法被&のぼり」をなびかせながら「山の日」のPR等を行いました。また、この法被&のぼりは一般登山者からも好評で記念撮影されていました。



山頂で記念写真



キレイにするって気持ちいい！

平成28年度 一般公募イベント

「森林散策と草木染め」

日時:平成28年10月15日(土) 9:30~
場所:高尾山国有林 日影沢キャンプ場周辺
内容:森林散策の後、草木染め体験をします。
募集人員:小学生以上の方30名を予定※小学生の場合は保護者同伴(応募者多数の場合は抽選)
応募締切:平成28年9月30日(金) 必着
申込方法:往復はがきの往信面にイベント名、参加者全員の①郵便番号②住所③氏名(必ずふりがなを入れてください)④年齢⑤確実に連絡のつく電話番号、返信面にお申込者の宛名をご記入の上、高尾森林ふれあい

推進センター「森林散策と草木染め体験」係までご応募ください。

保険料:一人あたり80円を予定

その他:小雨決行(荒天中止)

問合せ:高尾森林ふれあい推進センター

(土日祝日を除く開庁日の8:30~17:15)

電話番号:050-3160-6040

FAX番号:042-663-7229

担当:高尾森林ふれあい推進センター 磯田まで

編集後記

いよいよ台風シーズン到来。9月は森林教室が多いのでちょっと不安。台風9号の時は高尾山口駅前の川がもうちょっとで氾濫するところだった。森林教室などでは自然の大切さや素晴らしさを伝えることが多いが、本当の自然の姿は生き物にとって過酷な状況が少なくない。すべて受け入れて生きるしかありませんか・・・(磯)

Forest 通信 No.331

発行:林野庁関東森林管理局高尾森林ふれあい推進センター

【ご意見、ご要望及びイベント情報のお問合せ先】

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1

電話 050-3160-6040 FAX042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>